



Newspaper in Education



パンの店に自立の夢

「なじよにかなっぺ」沼津にオープン

震災避難者生き生き

18種特製サンド人気



開店に先立ちあいさつする店長の堀さん(中央)
沼津市のB・V・I沼津

県東部に避難している東日本大震災の被災者が準備を進めていたパン店と交流スペースを兼ねた店舗「なじよにかなっぺ」が1日、沼津市大手町の複合施設「B・V・I沼津」1階にオープンした。初日は、多くの来店者がオリジナルのパンを買い求めた。

オープンと同時に多「子さん(41)は「店内でくの人たちが訪れ、店は東北の方言がたくさ員は声を張り上げて注ん飛び交うと思うが、文を聞いたり、商品を何と話しているのかと作ったりしていた。沼話し掛けてくれたら私津トロフィッシュやみたちもうれしい」とあしまコロッケなどを挟いさつした。開店式にんだ18種類を並べ人気は栗原裕康市長も出席を集めた。

仙台市から富士市にパンはすべてコッペ引越してきて、同店パンを使ったサンドイツチ。堀さんが、被災

後に初めて食べた食事らしい食事がコッペパンだったことにちなんだ。

店員11人のうち6人は福島県や宮城県からの避難者で、店名は東北地方の言葉で「どうにかなるさ」の意味。働くことで自立した生活を取り戻すとともに、被災者同士や地域の人とのふれあいの場にする。

被災者支援に関するチラシなどを置き、来店すれば被災者支援に関する情報が得られるようにする。26席ある店内は交流スペースにもなる。

2012年6月2日朝刊 県内総合版

- ① 店名の「なじよにかなっぺ」は、どんな意味でしょうか。
- ② どんなパンがお客さんに人気がありますか。
- ③ 店を開いたのは、どんな人たちですか。どんなことを思って店を開きましたか。

年 組 名前